



真剣なまなざしで将棋盤と向き合う萩野さん

輝いています

ひと

蕨市小学生将棋大会個人戦5連覇

おぎの こうへい 萩野 公平 さん

プロ棋士を目指して

今年の6月で6回目を迎えた蕨市小学生将棋大会。子どもたちが頭脳戦を繰り広げるこの催しは、子どもの健やかな成長のために電子メディアとの接触を減らしていくアウトメディアの一環として、毎年開催されています。

この大会に第1回から出場し続けてきた中央東小学校6年生の萩野公平さん（12歳・中央7丁目）は、最後の出場となった6月の大会の個人戦でみごと優勝を果たし、5連覇の偉業を成し遂げました。

祖父の手ほどきの下、小学校入学と同時に将棋を始めた萩野さん。将棋教室にも通いながら、めきめきと力を付けていきました。そして初めて

出場した大会が、第1回蕨市小学生将棋大会です。6年生もいるなか、1年生の萩野さんは個人戦で決勝トーナメントまで進出しましたが、1回戦で惜しくも敗退。「このときの悔しさがきっかけで、がんばるようになりました」と、当時は振り返ります。以来、粘り強さが持ち味となり、不利な状況でも挽回できるようになった萩野さんは、いつも負けていた祖父にも勝てるようになり、翌年の第2回大会で初優勝を飾ります。その後、同大会のほか市外の大会にも何度も出場し、年上が多いなかでも勝ち進むなど、好成績を残してきました。

「カードゲームなどと違い、最初は誰もが同じ条件。そこから強さがどんどん変わっていくのがおもしろい」と、将棋の魅力について話す萩野さん。現在は、対局の最初から最後まで隙を見せないプロ棋士の豊島将之名人に憧れ、中盤で不利な状況に陥ることが多い自らの課題の克服に努めるとともに、より高いレベルの環境を模索中です。

目標は「プロ棋士」。本格的な挑戦を前に、萩野さんは静かに闘志を燃やしています。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

— No.40 —



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

大きな橋を背景に、団扇をくわえて川辺で佇むひとりの女性。女性が重ねた手の中には今捕まえた蛍が入っているのです。連れに見せようと振り返っています。女性の着物の揺れる袖や裾は、夏の夕暮れを吹き抜ける微かな秋風を感じさせてくれるようです。

本図を描いた真野暁亭（1871~1934）は、暁斎の弟子で（本名・八十五郎）、父の八十吉も暁斎の弟子でした。暁亭は明治17年（1884）に入門したようで、明治22年（1889）に暁斎が亡くなった後も全国、さらには大陸で修業し独自の画風を磨き、晩年まで画家として活動しました。

河鍋暁斎記念美術館 開催中

「暁斎の団扇絵—実用と鑑賞—」展 同時開催
「長野干裕 磁器絵付け—暁斎先生へのオマージュを中心に—」展

開館 = 午前10時～午後4時
休館 = 木曜日・毎月26日～末日
ところ = 南町4-36-4
入館料 = 一般600円 65歳以上500円
高校生・大学生500円 小・中学生300円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。
詳細 = 同館 ☎441・9780
(20人以上の団体は要予約)



真野暁亭筆「水辺の夕」(部分) 絹本淡彩 軸装

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます